P3-7

栃木県における新型コロナウイルス感染拡大が全国がん登録へ及ぼす影響 –2019年及び2020年症例の公表値から–

菊地康子[1)] 芦沢和恵[1)] 生出義美[1)] 橋本昂浩[2)] 稲見啓[2)] 大木いずみ[1) 3)] 藤田伸[1)]
1）地方独立行政法人栃木県立がんセンター 2）栃木県保健福祉部健康増進課
3）公立大学法人埼玉県立大学

栃木県

◆栃木県は、北関東に位置している。
面積：6,408 ㎢ （全国で20位）
人口：約187万人（2025年4月1日現在）

◆病院：106施設、診療所：1,452施設
都道府県がん診療連携拠点病院：1施設
地域がん診療連携拠点病院：5施設
地域がん診療病院：2施設
栃木県がん治療中核病院：11施設
その他の病院：87施設
指定診療所：6施設 （2025年4月1日現在）

【目的】

◆栃木県における新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大が全国がん登録に与える影響を、2019年及び2020年症例を比較することで検討した。

【方法】

◆栃木県がん登録公表値（2019・2020年症例）の浸潤がん罹患数を用いて性別、年齢階級別比較を部位別に集計した。

◆年齢階級は40歳未満、40、50、60、70、80歳代、90歳以上とした。

◆科学的根拠に基づくがん検診の部位（胃・大腸・肺・乳房（女性）・子宮頸部）と前立腺に着目した。

【結果】

「罹患数」

◆2019年・2020年診断症例罹患数 前年差 前年比

	2019年(件)	2020年(件)	差(件)	差(%)
男性	8,684	8,237	-447	-5.1
女性	6,341	6,239	-102	-1.6
男女計	15,025	14,476	-549	-3.7

※上皮内がんを除く

◆2019年・2020年診断症例罹患数 前年差 前年比

	2019年(件)	2020年(件)	差(件)	差(%)
男性	9,445	8,885	-560	-5.9
女性	7,328	7,087	-241	-3.3
男女計	16,773	15,972	-801	-4.8

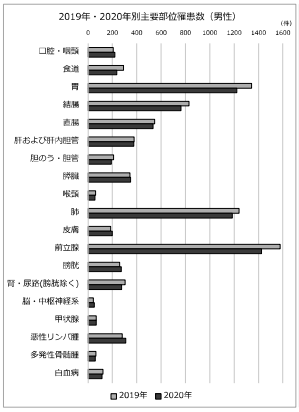
※上皮内がんを含む

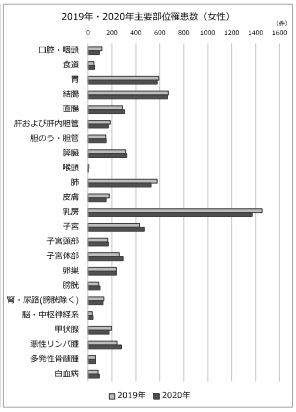
◆2019年の15,025件に対し2020年では14,476件と549件（3.7%減）減少した。

◆男性は8,684件から8,237件へ447件（5.1%減）減少、女性は6,341件から6,239件に102件（1.6%減）減少した。

◆上皮内がんを含めると2019年では、16,773件に対し2020年では15,972件と801件（4.8%減）減少した。

◆男性の方が女性より減少が大きかった。





◆罹患数が５%以上減少した部位

部位	診断年	罹患総数	割合総数
食道	2019年	343	14.9%
	2020年	292	
胃	2019年	1,935	7.1%
	2020年	1,798	
喉頭	2019年	70	17.1%
	2020年	58	
肺	2019年	1,819	5.8%
	2020年	1,713	
乳房	2019年	1,462	5.6%
	2020年	1,380	

部位	診断年	罹患総数	割合総数
前立腺	2019年	1,578	9.6%
	2020年	1,426	
腎・尿路(膀胱除く)	2019年	438	8.4%
	2020年	401	
甲状腺	2019年	265	8.3%
	2020年	243	
多発性骨髄腫	2019年	127	5.5%
	2020年	120	

◆罹患数の減少を認めなかった部位

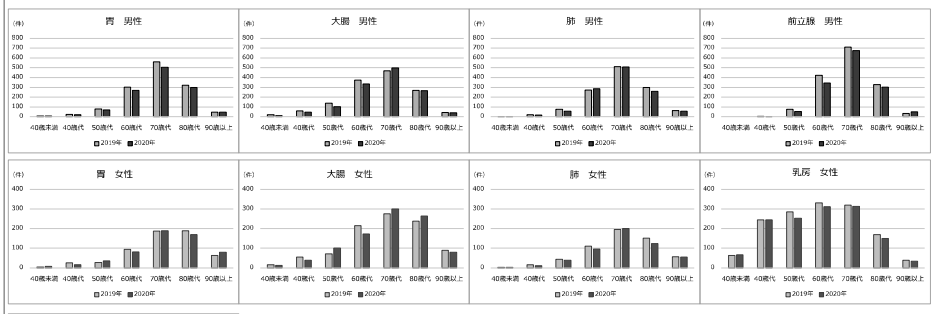
部位	診断年	罹患総数	割合総数
直腸	2019年	835	-0.5%
	2020年	839	
膵臓	2019年	661	-1.5%
	2020年	671	
子宮頸部	2019年	166	-3.0%
	2020年	171	
子宮体部	2019年	262	-12.2%
	2020年	294	
卵巣	2019年	238	-0.4%
	2020年	239	

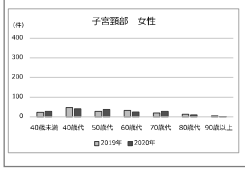
部位	診断年	罹患総数	割合総数
膀胱	2019年	350	-7.1%
	2020年	375	
脳・中枢神経系	2019年	80	-13.8%
	2020年	91	
悪性リンパ腫	2019年	525	-12.6%
	2020年	591	
白血病	2019年	206	-1.5%
	2020年	209	

◆罹患数が5%以上減少した部位は、食道、胃、喉頭、肺、乳房、前立腺、腎・尿路（膀胱除く）、甲状腺、多発性骨髄腫であった。

◆減少を認めなかった部位は、直腸、膵臓、子宮頸部、子宮体部、卵巣、膀胱、脳・中枢神経系、悪性リンパ腫、白血病であった。

「検診に関する部位」





◆検診に関係する部位（胃、肺、乳房、前立腺）は顕著に減少した。

◆女性の大腸と子宮頸部は減少を認めなかった。

◆男性の胃と前立腺は90歳以上を除くすべての年齢階級で減少がみられた。

◆乳房は50歳以上で減少した。

◆男性の大腸は60歳代までは減少し70歳代で増加が見られた。

◆男性の肺は罹患数の多い60～70歳代では減少を認めなかった。

【結論】

◆栃木県の全国がん登録罹患数は、2019年と比較して新型コロナウイルス（COVID-19）感染が拡大した2020年は、検診部位を中心に減少したが、がん罹患の解釈には慎重な考察が必要である。

日本がん登録協議会第34回学術集会 COI開示 筆頭演者名：菊地 康子 当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。